

「あー、星 見えたよー！」若葉小 星空観察

大きな天体望遠鏡を覗いた子ども達から歓声が上がりました。



天体望遠鏡

若葉小学校では平成25年から毎年星空観察会が行われています。例年夏の夜に行われていましたが、5回目の今年は去る2月15日、冬の星に挑戦してみました。

講師は校医の竹田数章先生です。先生との打ち合わせでは、「あの星も見せてあげたい」「☆☆星雲も面白いんだ」と子どもたちに愛情たっぷりの楽しいお話をしてくださいました。当日は自前の大きな望遠鏡と双眼鏡を持ち込んで、観察する前の星のお話も準備して下さいました。

日中お天気だったのに、夕方から雲が出てきてしまい、心配しましたが何とか観察することができました。肉眼では明るい星が一つしか見えませんが、レンズを覗くと無数の星が見えました。最後にはオリオン座大星雲も見ることができ、子ども達は貴重な経験をすることができました。

毎年、地区協の皆さんの警備のお陰で安全に夜の体験活動もできます。有難うございました。

(若葉小学校支援地域本部 大嶋 文子)

「人をつなぐ・地域をつなぐ」 ～糟嶺神社の行事について～

糟嶺神社は調布市入間町2丁目にあり、その昔より武蔵国多摩郡入間村（現入間町、若葉町、東つつじヶ丘）の守護神であります。御祭神は糟嶺の大神（かすみねのおおかみ）で農業の神様といわれています。創建は不明ですが棟札には寛永6年(1629)とあり、300年前にはすでに実在していたこととなります。

主な年中行事は次の通りです

1月 1日	元旦祭 ¹
14日	歳神祭 ² (どんど焼き)
2月 15日	祈年祭 ³
7月下旬	奉仕祭
10月 7日, 8日	秋例大祭 ⁴
11月初旬	七五三祝
18日	新嘗祭 ⁵



祈年祭

歳神祭
(どんど焼き)

写真提供：
小島 勝美

- 1. 元旦祭** 毎年大晦日の午後より境内清掃、拝殿清掃等行い、初詣のお客様にお出する甘酒の準備をします。毎年、天気によりますが、500名～700名の初詣の人がいます。神社のお札や破魔矢の販売等を行っています。
- 2. 歳神祭** 朝10時、宮司のお祓いを受け、古いお札や破魔矢、門松などを山として日本酒で清め点火します。どんど焼きには地元の小学生も参加し、全員みかんを食べながらお焚きあげをします。
- 3. 祈年祭** 種まき前に五穀豊穰を願うお祭り。
- 4. 例大祭** 昭和30年頃まで盛大に行われていました。参道には夜店がならび、舞台がかり演劇が行われました。今では、拝殿神楽が奉納されています。
- 5. 新嘗祭** 五穀の豊作に感謝する収穫祭。



神社の行事は創建当時より何百年も同じ方法で行われています。最近では人口も増えて、毎日お参りする人がたえません。これからも、行事を大切にしていきたいと思っています。

(糟嶺神社 奉賛会会長 新井 七吾)

地区協わかば

第18号 2018年 3月発行

発行者: 若葉学校地区協議会
会長 藤丸 卓男
事務局: 調布市立若葉小学校内
連絡先: 調布市協働推進課
042(481)7036
地区協mail:
wakabatikukyo@gmail.com

防災訓練2017

2017年度の防災訓練を11月12日(日)に第四中学校にて開催しました。

本年は、会場である四中の部活や校庭改修手直しのため、校庭の使用可能な日程が11月12日の一日となり、世話人の予行演習をすることなしで訓練を行いました。

さらに例年約50名が参加する四中生は、定期試験を控えていることから参加できませんでした。

他方、自治会に参加を強く働きかけたことと、神代高校生が例年に増して参加してくれたので、昨年162名の参加が本年は182名に増えました。

★被災した時を想定し、住民の生き残り技術の習得を念頭に置いた救出・救命活動では、参加者を四人一組で行動してもらいました。すなわち家屋に挟まれた砂人形を救出し、担架にのせ搬送中の落下防止を施し、離れたところに置いたカラーコーンを廻って、応急救護所に運び込みました。

その四人は救護所にて世話役から三角巾・AEDの使い方を学んだあと、そのまま残って、今度は次に砂人形を運んでくる新たな四人に三角巾・AEDの使い方を教え、救出、搬送、救護の技術を体験取得してもらうようにしました。

他方、スターツCAM社の好意で起震車を派遣してもらい、震度7の揺れの体験、水消火器で本物の火を消す訓練、煙の充満した部屋からの脱出、ビル等高所からの避難のため梯子車への乗車体験等、親子での対応する訓練も設けました。

★これまで訓練参加者は技術訓練を受けることはするものの、有り難い事ではあるが使用する機会がないため、その技術を忘れてしまうことがあります。

当会では、年に一度防災訓練や普通救命講習会等を開催し、技術取得者を若葉学校地区に万遍なく広めることに努めています。

★各自治会へのお願いですが、年に一度、応急救命の勉強会を開き、住民それぞれが家族・隣人を助ける技術を身に付け、そして維持し、まさかの時に失わずに済む命を救うための仕組みを作って頂きたいと思ひます。

(防災推進委員長 川寄 健次)



四中防災ボランティアチーム

四中防災ボランティアチームを立ちあげてから、一年が経とうとしています。これからの時代は、少子高齢化が進み、災害等が起きた際、中学生のような若い力が必要になってくることは不可欠です。学校と地域が協力し合い、助け合って生きていくことがこれからの最重要課題であると考え、そのことを念頭に活動してきました。

この一年、消防署の方々の多大なる協力を得ながら、様々な訓練を受け、ボランティアチームのメンバーも、訓練を通して着々と防災技術を習得し、人の命の大切さを学び、人命救助に対しての強い使命感をもてるようになりました。このような地道な活動が必ず役に立つ日がくることを信じ、今後も様々な経験を積み、災害時にリーダー的役割を果たせる中学生の人材を育成していきたいと考えています。地域の清掃活動も定期的に行い、地域貢献の精神を養うと共に地域を歩くことで、危険箇所の把握等にも努めてきました。

この地道な活動を続けた結果、「東京都教育委員会児童・生徒等表彰」を受けることになりました。今回の表彰を受け、生徒の志気も高まりました。今後も更なる訓練と活動を継続していきたいと思えます。

(調布市立第四中学校 副校長 吉岡 正元)



大地震想定夜間訓練

2月20日(火) 17時30分、震度6強の地震発災を想定し、避難所担当職員が来るまで開設準備に取りかかる夜間訓練を、改装して新しくなった四中体育館で行いました。

人員確保から始まり、体育館の解錠や、体育館内外の目視による被害の確認班、資機材取り出し班、避難者対応班とグループを作り、各役割を指示し、作業を終えた各リーダーから安全確認などの報告を受けました。また、体育館内停電との想定で、新しいハイブリッド型の発電機(ガソリン、又はプロパンガス燃料として使用し、電流の強さは30アンペア)の使い方、照明機の点け方、暖房機(石油ストーブ)の使い方などの訓練をしました。その後、体育館の外、南側に新しく設置されたマンホールトイレ(9カ所設置できる)の見学と使い方の説明を受け、訓練は終了しました。

設置、使用の仕方など覚えたように思っていたのですが、実際にやってみるとスムーズにいきません。訓練というものは何回もやって体で覚えていくものなので、重ねる必要があると実感しました。

(四つ葉学校防災協議会 会長 笠木 勝司)



普通救命講習

2月3日午前、冷たい朝でありましたが、各自治会及び若葉小PTAの方々18名が参加し、調布消防署つつじヶ丘出張所、東京防災救急協会指導のもと新規の普通救命講習会を実施いたしました。

講師の分かり易い説明と丁寧な実技指導により、心肺蘇生方法・AEDの使用方法・止血方法などを学びました。和やかな雰囲気の中、真剣に取り組み、活発な質問も出てあっという間に3時間が過ぎ、無事終了しました。

自分の周りにこんな講習を受けた人が少しでも増えたら、地域も安心だなと思いました。

(防災推進副委員長 渡辺 要三)

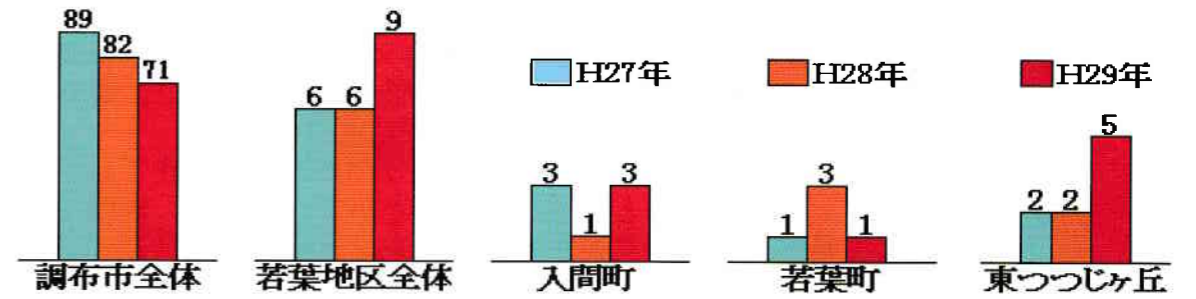


防犯関係のお知らせ

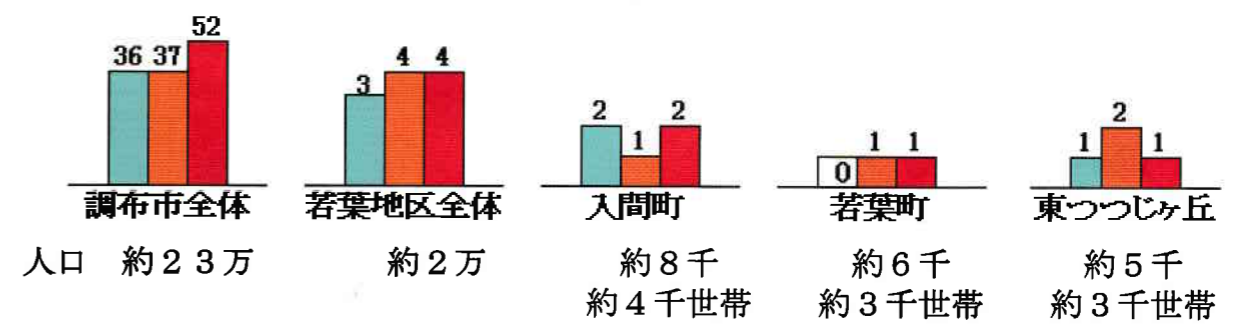
忍び寄る油断に備えよう

今回は最近の2種類の被害件数を通して、まちの今後を見据え、犯罪抑止に向けた住民皆様の不断の努力について考えます。

●侵入盗(あきす)被害と当地区の被害件数



●オレオレさぎ、還付金さぎ等の特殊詐欺と当地区の件数

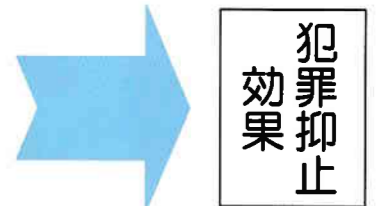


出典：調布警察署及び市HP

安心して暮らせる、まち創りとは？

昨年6月「防犯座談会2017」が開かれ、自治会有志の方々を交えたグループ討議では貴重な考え方の方向が示されました。即ち「住民だからできる防犯活動」には、以下の活動が含まれるというものです。地域の人と公共施設に関心を持つことの意義を強く感じます。

- 挨拶の交換
- ご近所付き合い
- キタナイ、アブナイを放置しない



★不審な電話はすぐ110番！ お問い合わせ 調布警察署042-488-0110

地域防犯力の向上に努めています

若葉学校地区協議会では 防犯関連活動の一環として、以下の活動を実施しています。

- ①定例防犯パトロール：年間約30回、参加延べ人数約130名(本年度3月末見込み)
- ②地域防犯啓蒙活動：防犯座談会(本年度の場合、6月3日、於東部公民館、参加45名)
- ③パトロールコース沿い道路、公園、広場のごみ拾い等

定例防犯パトロール風景



防犯座談会風景



当地区協では活動への参加者を募集しています。お時間の都合がつく範囲での参加ができます。

(防犯推進委員長 山田 十三男)